



アスピス!

2026/9/17

JFA



9/17 理事会

リスペクト横断プロジェクト（仮）

審判部、指導育成部、
競技運営部、コミュニケーション部、
経営企画部サステナビリティG

RESPECT
大切に思うこと



2008年度から18年、JFAとJリーグは理念から現場の仕組みまでリスペクトを積み上げてきた。



「リスペクト」の本質は、常に全力でプレーすることであり、それはフェアプレーの原点である

仲間や対戦相手、**審判**、指導者、**競技規則**など、サッカーを取り巻くすべてを「**大切に思うこと**」として尊重し、「フェアで強い日本」を目指すことで、サッカーの価値を高め、社会に広めていこうと考えている

理念 | リスペクト宣言

2008年度にJFAとJリーグが共同で開始。リスペクトを「大切に思うこと」と定義。

規範 | JFAサッカー行動規範

最善の努力、フェアプレー、相手の尊重、社会悪との戦いなど11項目を明文化。

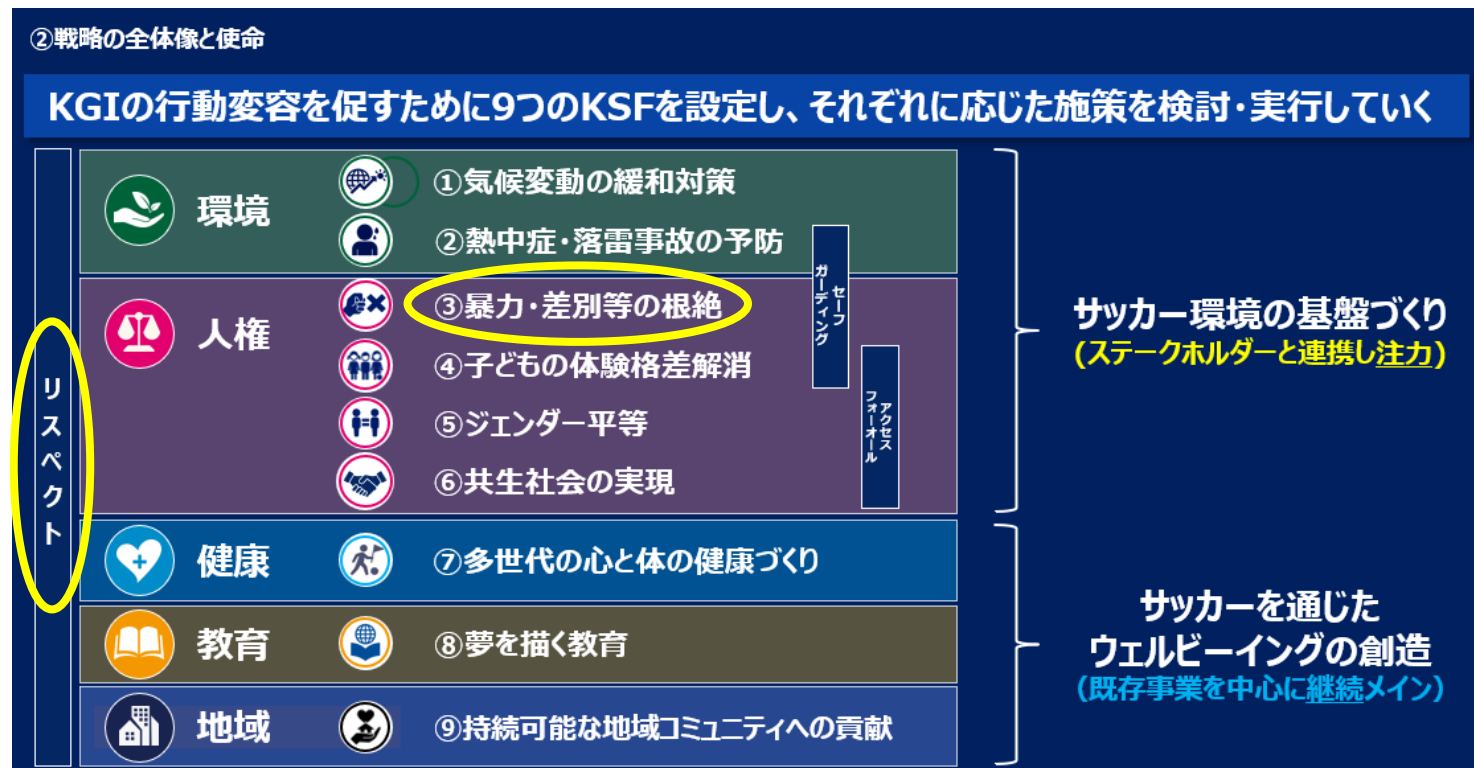
育成 | グリーンカード制度

U-12年代以下の試合で、良い行いを称える運用を全国に奨励。

保護 | 暴力・差別への対応

断固反対の姿勢を掲げ、通報・相談窓口を設置して現場の声を受け止める。

26年1月に方針決議されたサステナビリティ戦略においてもKSFのひとつに位置付け。



(26年1月理事会資料抜粋)

暴力・暴言は依然として大きな課題。一方で、施策は部門ごとに分散し、力を束ねられていない。

■ 背景・課題 【現場の実態+JFAの課題】



選手
(U-12みらい
プロジェクト)

「一部の指導者による選手への暴力・暴言が繰り返され、選手が楽しくプレーできない」
(U-12みらいプロジェクト資料より抜粋)



審判員
(ユース審判員
パブコメ2025)

「審判をしている場で、いやな思いをしたり不安を感じたりすることはありますか？」
ある52% / どちらとも言えない16%
→ 約7割が「いやな思い」を否定できない状況

+



JFA

リスペクト関連の施策が各部門で個別に進行し、相乗効果を生みきれていない。

9月のリスペクトフェアプレーデイズに各部門の取組を集約し、発信力を高める。

■ 狙い・目的

- ◆ 部門ごとの「点」の取組を、共通の傘のもとで**一つのプロジェクトに束ねる**
- ◆ 9月のリスペクト・フェアプレーデイズ*に集中展開し、**発信力・影響力を最大化する**

■ 共通メッセージ

- ◆ 本年は各施策ごとのメッセージを優先する
- ◆ 来年に向けて、メッセージの統合や共通タグラインの作成を検討する

*リスペクト・フェアプレーデイズ（強化月間）

毎年9月1日～30日をリスペクト強化月間として全国で展開する取組み。

各リーグ・協会の試合でリスペクト旗の掲揚とキャプテンによる宣言を実施。

▶ 2026年の実施概要は次頁



9月の1カ月間、全国で宣言や各種施策を展開し、9/26のシンポジウムで締めくくる。

項目	内容（2026年7月2日 JFA発表）
開催期間	2026年9月1日(火)～30日(水)の1カ月間。 リスペクト・フェアプレーの強化月間として全国各地で施策を展開。
リスペクト宣言・ リスペクト旗の 掲揚	JFA、Jリーグ、WEリーグ、なでしこリーグ、Fリーグ、JFLほか各種連盟・47FAが主催する大会・イベントでリスペクト旗を掲揚し、試合前にキャプテンがリスペクト宣言を実施。
リスペクト アウォーズ 2026	「事業・取り組み部門」（一般投票で大賞）と「ちょっとした工夫部門」（会長賞）の2部門。 9/26に発表・表彰。
パブコメ／ フォトコンテスト	「U-18子ども」「ユース審判員」の2つのパブリックコメントを実施。あわせて「リスペクトのある風景」フォトコンテストを展開。
リスペクト シンポジウム	テーマ「審判員とのリスペクト」他。9/26(土)13:00～17:00@blue-ing! + オンラインで開催。 指導者・審判員・47FA・各種連盟・リーグ関係者に加え、一般参加も可能。

デイズの施策に、5部門の施策を重ねて9月を皮切りに集中展開する。

部門	主な施策
審判部	ユース審判員リスペクトワッペン導入、プロモーション映像制作・発信、特設ページ、ポスター露出
指導育成部	eラーニング「子どものセーフガーディング基礎コース」設置、リフレッシュポイント付与
競技運営部	日本代表戦：リスペクト宣言、リスペクトブース出展 国内大会：リスペクト宣言 U-12選手権：バナー設置、出場チームキャプテンリスペクト宣言、マッチウェルフェアオフィサー配置
コミュニケーション部	メディアリリース発信（全体概要および各種施策）
リスペクト部会 /経営企画部 サステナG	リスペクト・フェアプレーデイズ各種施策

審判リスペクト

- Respect for Referees -

17 September 2026

Japan Football Association



JFA審判委員会のミッション

全てのサッカーファミリーが「フェアで、安心・安全な試合」を楽しめるように、審判員の育成と、競技規則とその精神の理解・浸透を行う。

審判委員会のビジョン2030

普及

すべての選手が試合をプレーできるように、審判員を育成する。

育成強化

グラスルーツからトップリーグまで、すべてのカテゴリーで審判員がレベルアップする。

競技規則の浸透

サッカーに触れるすべての人々へ、競技規則および競技の精神の理解・浸透をはかる。

環境の整備

審判員が審判活動を楽しめるために、審判活動を継続的かつ適切に行える環境を整備する。

トップ審判員の輩出

世界のトップレベルで活躍する審判員を継続的に輩出する。

映像は[こちら](#)



2025



**FIFA審判委員長
ピエールレイジ・コッリーナ氏**
「審判への暴力を止める行動を」
FIFA総会で声明

第75回FIFA総会において、FIFA審判委員長のピエールレイジ・コッリーナ氏は世界中の加盟協会に対し、**グラスルーツやユース審判員に対する暴力や暴言を根絶するための具体的な行動を求めた。**

同氏は「審判員に対する身体的・言葉による暴力を止めるために行動してほしい。特にユースやグラスルーツの審判員に対するものだ」と訴えた。

2026



**JFA・Jリーグ・WEリーグ
Jクラブ・WEクラブ
日本サッカー
「倫理・コンプライアンスに関する
共同声明」を発表**

日本サッカーはこの30年余りで大きく発展する一方で、早い段階からフェアプレーやリスペクトを推進しているが、暴力や暴言等の根絶に至っていない。そこで、私たちは高い倫理観と厳格なコンプライアンス意識を持って、**暴力・暴言・誹謗中傷・ハラスメント等の根絶に取り組み、人々に信頼される、強く公正な日本サッカー界の実現を目指します。**

2025



スペインサッカー連盟 声明
スペイン1部リーグでの
主審への誹謗中傷や脅迫

退場処分を巡る主審らへの誹謗中傷や脅迫を受け、同連盟は声明を発表し、主審への攻撃を強く非難した。

- 審判員は日常的に憎悪や言葉の暴力にさらされている
- アマチュアレベルでは暴力に発展するケースもある
- 審判員への攻撃は断じて容認できない



Jリーグ 声明
誹謗中傷・カスタマーハラスメント
等への対応について

誰もが安心・安全にサッカーに関わり、楽しめる環境を、ファン・サポーターや関係するすべてのみなさまとともに作り上げていくべく、**選手・スタッフや関係者すべてに対する誹謗中傷等の違法・不当な行為に対する考えを改めて表明し、カスタマーハラスメントに関する基本方針を作成**

2026



川淵三郎氏
審判団への異議 気に入らない
「審判に文句言ってどうすんの。
本当に恥ずかしい」

34年目を迎えたJリーグの発展を称賛した一方で、**審判の判定に食って掛かる選手を「恥ずかしい」と断じるなど自身の見解を述べた。**
「一番僕が言いたいのは、審判に文句言ってどうすんのって。30年前からずっと思っていた。不愉快に思わない人はいない」



大切に思うこと

「リスペクト」の本質は、常に全力でプレーすることであり、それはフェアプレーの原点である

仲間や対戦相手、**審判**、指導者、**競技規則**など、サッカーを取り巻くすべてを「**大切に思うこと**」として尊重し、「フェアで強い日本」を目指すことで、サッカーの価値を高め、社会に広めていこうと考えている

1

ルールを正確に理解し、守る

フェアプレーの基本はルールをしっかりとった上で、それを守ろうと努力することである

2

ルールの精神：安全・公平・喜び

ルールは、自分も他人もけがをしないで安全にプレーできること、両チーム、選手に公平であること、みんなが楽しくプレーできていることを意図して作られているのである

3

レフェリーに敬意を払う

審判は両チームがルールに従って公平に競技ができるために頼んだ人である人間である以上ミスもするが、審判を信頼し、その判断を尊重しなければならない

4

相手に敬意を払う

相手チームの選手は「敵」ではない。サッカーを楽しむ大切な「仲間」である仲間にけがをさせるようなプレーは絶対にしてはならないことである

RESPECT
大切に思うこと

JFAセーフガーディングポリシー

目 的

子どもたちが **サッカーを安心・安全に楽しみ続けられる環境** を生み出す。
守り続ける。子どもたちをエンパワーする。

対 象

サッカー、スポーツを安心・安全に楽しむことは、すべての人の権利であり、
サッカーファミリー全体にとってとても大切なことです。

その中で特に、**おとなに比べ自らを守ることが難しい18歳未満の子ども**、
そして、成人でも様々な理由から弱い立場にあり危機にさらされやすい人
については、**サッカーファミリー全体で配慮し守る必要があります。**

基本原則

1. 子どもたちの喜びを広げ、成長を促す環境をつくる
2. 子どもたちに選択肢を与える
3. 子どもたちの声を聞く
4. 子どもたちの安心・安全を守る
5. 健康リスクに対処する
6. あらゆる暴力・暴言を排除する
7. あらゆる差別を排除する
8. あらゆるハラスメントを排除する
9. あらゆる誹謗中傷を排除する
10. 子ども同士の問題にもアプローチする
11. サッカー外の問題にも気づく
12. 負の連鎖を断ち切る

ユース審判員からすべての審判員へ

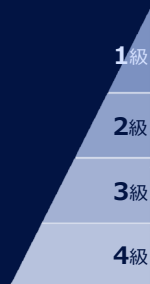
ユース審判員から段階的に対象を広げていき、
サッカー界全体を巻き込むことで「審判リスペクト」を着実に浸透させていく



ユース審判員から取り組む理由

現在の活動状況

■登録者数



2024年度登録者数 278,100 名



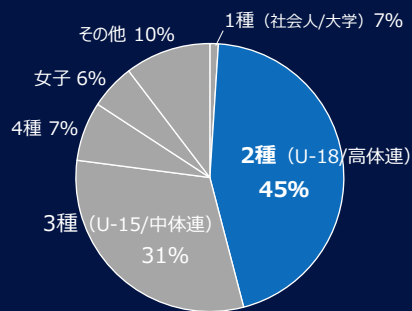
サッカー3級審判員
664 名



サッカー4級審判員
102,147 名

ユース審判員*の割合
全体の約4割

■活動状況



U-18リーグにおいても、
ユース審判員の活動が欠かせない



主審

主に顧問や指導者が担当



副審

主にユース審判員が担当

あるべき活動環境



全国の試合の支え手



将来のトップレフェリー候補



皆で守り育てる存在

ユース審判員への取り組みは、日本サッカーの**現在と未来**を守ること

ユース審判員が、成長段階に応じた環境のもとで、
安全かつ適切に審判活動を行うための環境を整備する

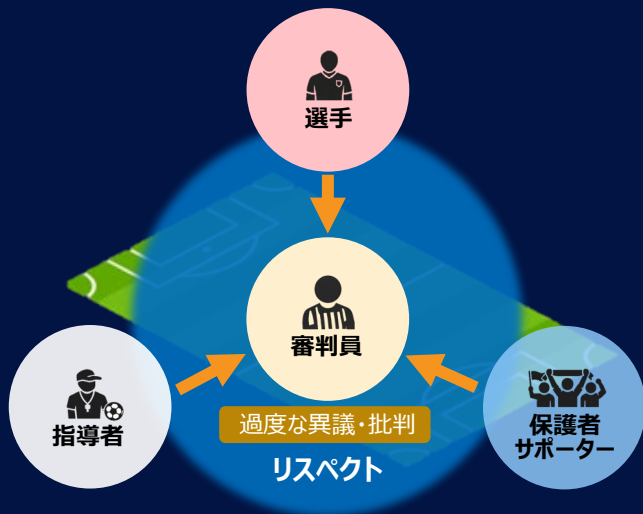
- 1 同世代の試合は、同世代で支える
- 2 成長段階に応じた適切な学びの機会と実践の場の提供
- 3 試合現場におけるリスペクト文化の醸成

※ユース審判員：U-18審判員

ユース審判員を取り巻く現状

※JFAラーニングアンケート | 有効回答数：21,279人 回答率：21% (全体 102,811人)
※ユース審判員パブリックコメント | 有効回答数：256人

現在の状況



【U-12選手権】清水 v 小倉南
FCリバーズ(愛媛) v アルティスタ浅間

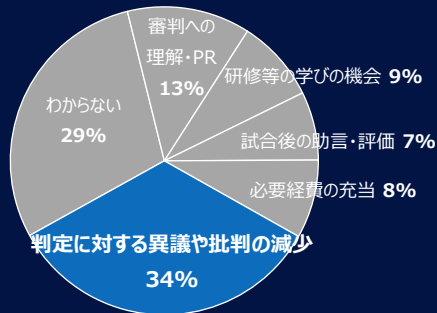


【高校総体】前橋育英 v 高知中央

ユース審判員の声

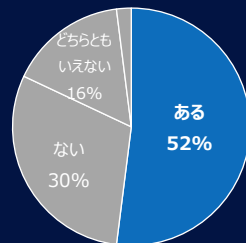
アクティブユース審判員アンケート（サッカー3・4級）*

設問：審判活動の充実のため、次の中で最も改善が必要だと思うこと



ユース審判員パブリックコメント（サッカー/フットサル3・4級）*

設問：審判活動中に、嫌な思いや不安を感じたことがあるかどうか



■判定に対する文句や暴言（74件）

- ・選手や監督から死ねなどの暴言が聴こえる事がある
- ・試合中ずっと選手、控え、監督・コーチに文句を言われ続けた
- ・選手からの心無い暴言、SNSで晒されたり、脅迫とも取れるメッセージが届いたり大変なことがたくさんあるからです

■判定への不安（37件）

■その他（31件）

取り組みの概要

目的

試合を支える若い審判員が、**安心して成長できる環境を整えること**を目的とし、「審判員へのリスペクト」を全国に広く浸透させるために推進していきます。

背景

日本のサッカーがこれからも発展していくためには、選手の育成と同じように若い審判員の力が不可欠です。そして、審判員もサッカーファミリーの大切な一員であり、選手と同様にサッカー界全体で育てていく責任があります。

内容

サッカーファミリーの中でも特におとなに比べ自らを守ることが難しい**ユース審判員**が、ユース審判員リスペクトワッペンを着用することで、審判員が「まだ学びの途上にある若者」であることを示し、選手・指導者・保護者・観客の皆さまにより**一層の理解と敬意ある対応をお願いするための取り組みです。**



基本原則

試合には審判員が必要である

- 1 サッカーの試合を安全で公正に行うためには、審判員の存在が不可欠である。審判員は競技規則に基づいて試合を進行する重要な役割を担っている。

審判員も試合に向けて努力をしている

- 2 どの試合でも、その試合に適したスキルを備えた審判員が担当している。審判員もまた選手と同じように、試合へ向けた準備や研鑽を重ね全力で臨んでいる。

ユース審判員*は学びの途上にある

- 3 審判員も選手と同様、数多くの試合の中で「成功」と「失敗」を繰り返しながら成長する。審判員としての責任は等しく求められるが、経験を積みながら学んでいる段階にあり、成長過程であることを理解し、温かい声掛けが必要である。

過度な異議や批判をしない

- 4 判定に対する過度な異議や誹謗中傷は、審判員の育成環境を損ない、サッカーを支える活動から離れることにつながっている。こういった行為の繰り返しが、サッカー界全体の発展を妨げることを考えなければならない。

みんなで審判員を育てる

- 5 ユース審判員は、未来の日本サッカーを支える存在である。選手や指導者、観客がともに理解し支えていくことで、サッカーの現場は「育つ場所」となり、その先により豊かな未来が拓ける。

※ユース審判員：U-18審判員

試合会場における行動指針 - みんなで守る試合の約束 -

試合前

大人の姿勢が安心を生む



指導者

- 🕒 ベンチスタッフへの冷静対応の徹底
- 🕒 選手に対して「競技の精神」を伝える
 - 最終判断を審判員に委ねていること
 - 笛が鳴るまでプレーを続けること
- 🕒 審判員への挨拶と前向きな声掛け

保護者・観客

- 🕒 成長過程であることを理解する
- 🕒 温かく成長を見守る姿勢で接する

試合中

態度で示すリスペクト



指導者

- 🕒 判定を尊重し、落ち着いて対応する
 - 過度な異議や批判をしない
 - 冷静な態度・姿勢で試合を見守る
- 🕒 選手・ベンチスタッフへの冷静対応の徹底

保護者・観客

- 🕒 判定を尊重し、批判ではなく見守る
- 🕒 良いプレーには拍手、判定にはリスペクト

試合後

育てていく対話へ



指導者

- 🕒 「お疲れさま」で審判員への労いを
- 🕒 気付きや疑問があれば、建設的に対話
 - どのように見えたのか？
 - どのように考えて判断したのか？
- 🕒 必要があれば、大会主催へ正式に相談

保護者・観客

- 🕒 個人への批判やSNS投稿をしない
- 🕒 「お疲れさま」で審判員への労いを

海外での取り組み



Northern Ireland

ユース審判員アームバンド

2022/23シーズンより導入

Mike氏より、トラブル減少の報告あり



England



ユース審判員アームバンド

2025/26シーズンより導入

ボディカメラ

2023年から試験導入

ユース審判員アームバンド

18歳未満の審判員をより保護することを目的としており、選手、指導者、観客に対して「審判員が未成年である」ことを視覚的に示し、より一層の敬意と忍耐をもって接するよう促すもの。

ボディカメラ

審判員保護とリスペクト向上を目的とした施策として進められている。2023/24では、カメラ起動がゼロ、2024/25では起動が6回であり、FAは「映像取得よりもカメラの存在による抑止効果が大い」と分析。



Australia



18 Green Initiative

Nepean FA（シドニー西部）の取り組みで、18歳未満の審判員を「尊重・保護・定着」することが目的。緑色のアームバンドを支給し、着用場所は袖・ソックスどちらでも構わない。2024年の試験導入後、若手審判員に関するトラブルが劇的に減少したと報告された。



USA



ユース審判員バッヂ

2025/26シーズンより導入

Respect the Call

判定を尊重しようキャンペーン

ユース審判員グリーンバッヂ

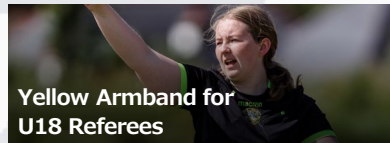
18歳未満のすべての認定審判員が着用し、審判員が未成年であることを視覚的に示す。世界最高レベルで活躍できる審判員を育成・確保していくためには、グラスルーツで審判員を守り、支えることから始めなければならないと導入を決定。

Respect the Call

判定に賛成しなくてもよい、しかし審判員は尊重しなければならないという考え方。完璧な判定ではなくても、試合を支える審判員への敬意を示すことが、サッカー全体の未来につながると訴え。



Wales



Yellow Armband for U18 Referees

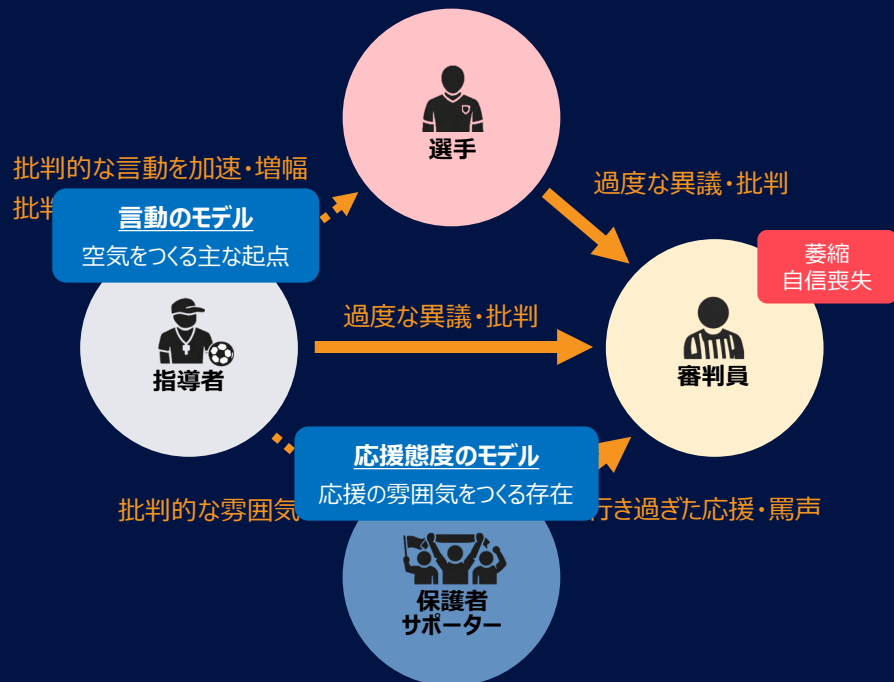
18歳未満の審判員に黄色のアームバンドを導入

2022/23シーズンから、18歳未満のすべての試合で審判員が着用する黄色のアームバンドを導入。

このアームバンドは、審判員が18歳未満であることを選手、指導者、観客に視覚的に示し、若い審判員に対し、リスペクトを欠いた言動を減らすことを目的としている。

普及戦略

攻めのアプローチ



守りのアプローチ



具体的な普及アクション

指導者養成 × 審判

資格
取得

指導者養成講習会

本取り組みの目的や意義を伝達し、
指導者の基本姿勢として醸成する
【Pro/B級】審判パートあり（90分）
【C/D級】セーフガーディングへの組込調整中

活動

リフレッシュ研修会

本取り組みの目的や意義を再確認し、
指導現場での適切な対応を促進
【その他】フットボールカンファレンス など

大会

監督会議等

本取り組みへの理解を再確認し、
選手・保護者を含め、審判員への適切
な対応を徹底
【その他】技術と審判の協調

指導者

保護者
サポーター

審判関連

ユース審判員／審判指導者

■ ユース審判員

4級新規講習会を通じて、
本取り組みの紹介とワッペン
着用のお願（ユース審判
員向け映像）

■ 審判指導者

必須講習で本取り組みの
共有と審判員のサポートの
お願い（コンセプト映像）

競技会 × 審判

■ 状況に応じた段階的なアプローチ

Step 4

審判理解の促進

副審体験など観客向け体験イベント実施

Step 3

試合会場でのプロモーション

ポスター・コンセプト映像上映・アナウンス等

Step 2

監督会議等での共有

ユース審判員活用と適切な対応依頼

Step 1

実施要項への明記

ユース審判員活用と適切な対応依頼

必須

プロモーション × 審判

より広い層に「審判リスペクト」を知ってもらう

■ 映像素材の製作・配信

JFA Passport、SNS等のメディアを活用した露出

■ リスペクト・フェアプレーデイズ

「審判リスペクト」をテーマとして情報発信・啓発
09.26 リスペクト・シンポジウム

Appendix

実態調査 | 失効者へのアンケート

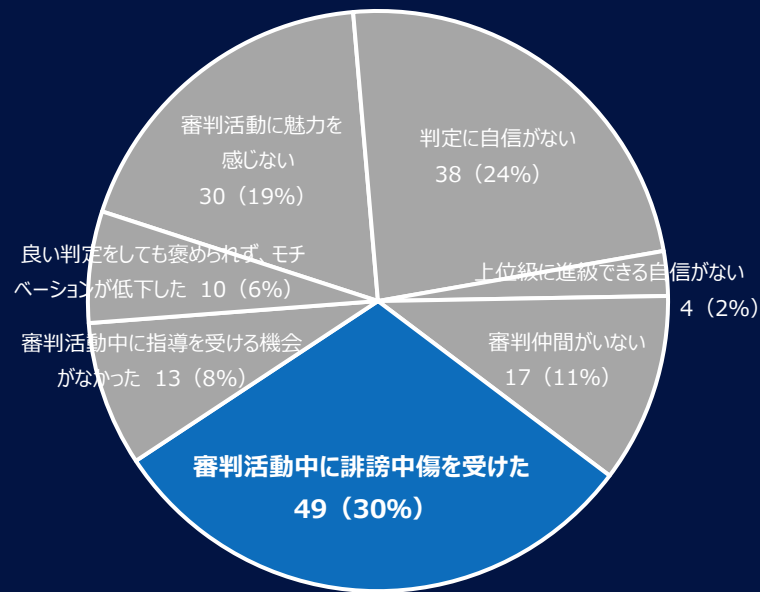
サッカーおよびフットサル3級・4級審判員の失効者に対するアンケートを実施

審判活動に関する内容			161 10%
外的要因	選手・チーム指導者に専念したい		333 22%
	サッカー自体を辞めた/サッカーをする環境がない		
	資格が必要なくなった（チーム事情）		
	家族がサッカーを辞めた		
生活・健康上の要因	仕事・育児等で活動時間の確保が困難		120 8%
	年齢や健康状態を考慮した		
財政的な要因	金銭的負担が大きい		242 16%
	登録料に見合う価値を感じない		
	試合に対する対価（審判謝金等）が低い		
更新手続き関連	更新講習会の手続き（申込み・支払い等）を失念していた		671 44%
	更新講習会の受講が面倒だった		
	KICKOFFのログイン情報がわからなかった		
	更新方法がわからなかった		

■ 2024度失効者

回答数：1,070人

回答数／失効者数：1.2%（全体 83,203人）

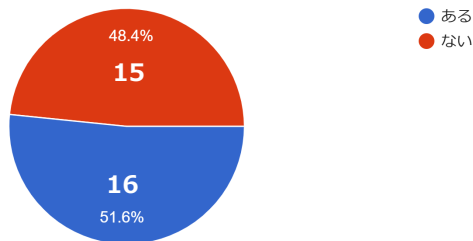


「誹謗中傷」は、どの年代でも一定割合で失効理由に挙げられており、**審判界全体に共通する課題**である。ユース年代では、回答数3と少ないが、次頁のデータからも若年層においても例外でないことを示している

U-12選手権 | ユース参加審判員への実態調査アンケート

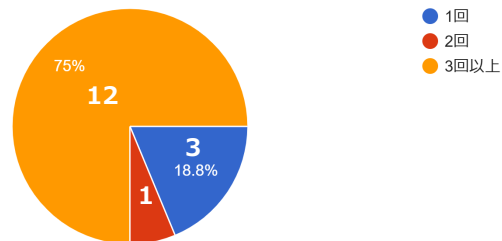
問1. 審判活動を通して、ご自身が傷つくような過度な異議や批判を受けたことがありますか？

31 件の回答



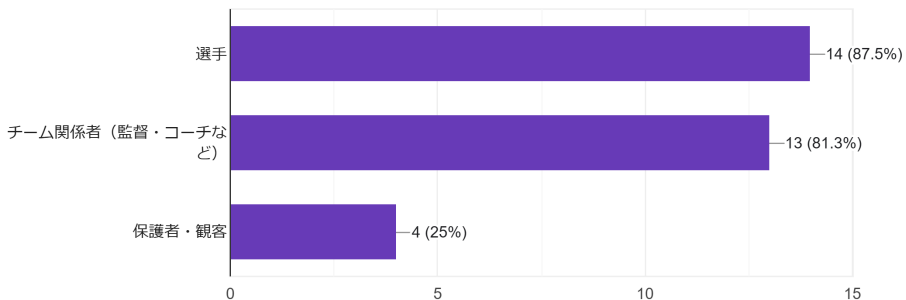
(1-1) それは、どの程度の頻度で受けましたか？

16 件の回答



(1-2) それは、誰からの批判ですか？（複数回答可）

16 件の回答



U-12選手権 | ユース参加審判員への実態調査アンケート

(1-3) ご自身が最も傷ついたときの内容を教えてください。

軽

判定への不満・抗議(2)

- ✓ 監督「試合を壊された」
- ✓ 「誤審だ」などと判定に対する執拗な抗議

侮辱・人格否定(10)

選手・監督や観客から、以下のような発言

- ✓ 「どこ見てんだよ」、「あの審判目ついてんのか」(6)
- ✓ 「こんな審判にやらせんなよ」、「この審判ハズレだ」(3)
- ✓ 「ルールわかってない」

ルール逸脱行為(1)

- ✓ 役員が無断でフィールドに入り大声で抗議、圧力をかけてきた

差別ハラスメント(2)

- ✓ 選手や保護者、チーム関係者から判定に対する性別偏見
- ✓ 女だからという理由、メガホンで性的な発言

批判の重さ

重

(1-4) そのとき、ご自身はどのような心境でしたか？

軽

自己受容・自責の念(2)

- ✓ 良いポジションを取れず、自分が悪いのかなと思った
- ✓ 審判なので抗議や判定に対する文句は前提でやっている

精神的ダメージ・萎縮(7)

- ✓ 自分が一生懸命していることを否定されて嫌な気分になった(4)
- ✓ 正しく競技規則を適用しても、全て間違いだと思い込んでしまった(2)
- ✓ 威圧感とプレッシャーで判定が怖くなった

恐怖・心理的安全の喪失(1)

- ✓ 試合後、背後から襲われるのではと何度も振り返りながら帰った

継続意欲への影響(1)

- ✓ 審判をやめようと思った

精神負担

重

U-12選手権 | ユース参加審判員への実態調査アンケート

(1-5) その後のレフェリングや審判活動にどのような影響がありましたか？

(1-6) 批判を受けて、審判をやめたいと思ったことはありますか？

16 件の回答

軽

成長・前向きな解釈(7)

- ✓ インストラクターから判断が良かったと言われ気にしなかった (2)
- ✓ 次にもっと良いレフェリングができるよう心掛けている (2)
- ✓ 自分が成長できる良い機会だった (2)
- ✓ 重く受け止めすぎないようにしている

自信低下・心理的萎縮(5)

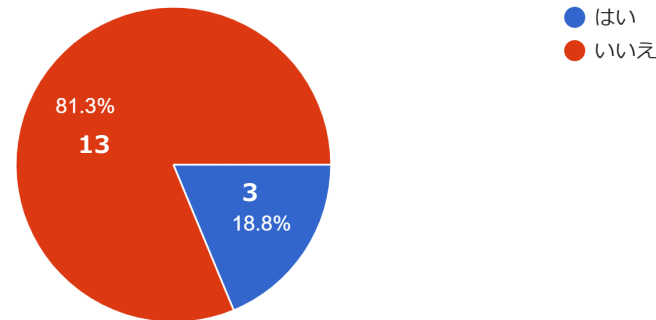
- ✓ 判定に身長になった、自信が持てなくなった (3)
- ✓ 判定することが怖くなり、試合後1週間ほど審判が怖くなった
- ✓ ベンチや役員の反応が気になり、自分の判定を表現できなくなった

審判活動への影響・回避行動(2)

- ✓ 審判をやりたくないと思うこともあった
- ✓ 当該チームは避けて割当を組んでもらっている

影響度

重



U-12選手権 | ユース参加審判員への実態調査アンケート

問2. どのような環境があれば、審判員にとって良い成長に繋がるとおもいますか？

保護 | ユース審判員への配慮(11)

- ✓ 成長過程の審判としての理解と周囲の支え (3)
- ✓ 大人が守ってくれる安心できる体制が必要 (2)
- ✓ 審判理解を深め、抗議を減らす (3)
- ✓ 審判尊重と過度な批判・誹謗中傷への対策 (2)
- ✓ 過度な抗議には懲戒制度を設ける

環境 | リスペクトある競技環境(9)

- ✓ 互いに意見を尊重し合う姿勢 (4)
- ✓ 審判も人間であり信頼されるべき存在 (2)
- ✓ 批判よりも温かく見守る姿勢 (3)

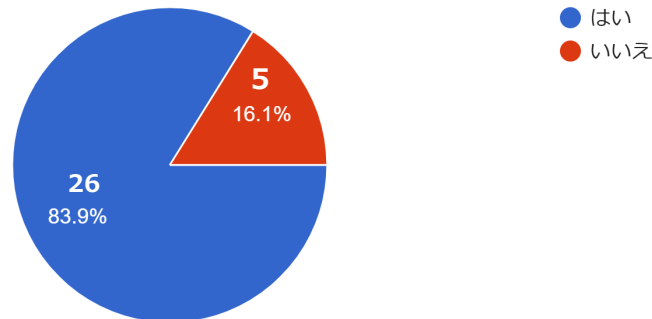
育成 | フィードバック・学びの機会(8)

- ✓ 批判でなく、助言しあえる関係性 (3)
- ✓ 温かく見守り、次に繋がる声掛けがある環境 (2)
- ✓ 講習会や意見交換で振り返る学びの場が必要 (2)
- ✓ 試合直後の監督の意見提供

運営 | 運営・体制面の強化(3)

- ✓ 大会運営・本部に試合を止められる人材を配置 (3)

問3. 特にユース審判員に対して、過度な異議や批判から審判員を守るような取り組みの必要性を感じますか？





Thank you.